

サハリンのその後

今年の8月16日～19日に、3年ぶりにサハリンの地質調査に行ってきました。サハリンは石油景気で3年前に比べ、社会構造が変わりつつあります。

以前のサハリンは電話事情が悪く、大きな会社や金持ちの自宅にしか電話はありませんでした。1993年頃の政変時期には通りに公衆電話がありましたが、社会状況が不安定なため壊され、お金を入れなくても自由に電話が可能な状態（入れても通話しなかった？）でした。今は、携帯電話を持つのがビジネスマンのステータスのようです。山の中でも立派に通じていました。共同調査のロシア人の相棒は優秀なためまた別の石油会社に引き抜かれ、調査の間にも仕事の電話がかかってきます。ロシア人は電話が長くしばしば仕事が中断します。こんな山の中まで電波が届くのか？という場所でも電波が途切れず、平気で会話をしていました。街の中もアンテナは目にしませんでしたので、おそらく強烈な電波を流しているのでしょう。強烈な4輪駆動車で道なき道を調査する力まかせのロシア方式がここでもかいま見られます（タンネウシ6月号）。

サハリン滞在最後の夜に、回転すしを食べに行こうということになり、タクシーを携帯電話で呼びました。ちゃんと指定した時間にアパートの入口で待っていました。日本のような料金メータはなく、おおよその値段で動いているようです。「値段は高いのか？」と相棒に聞くと、「ミドル」と言う返事で、30分程の乗車距離で日本円で2,000円ほどのようです。頑強な若い運転手で、ロシアのロック音楽をガンガン鳴らされるのには閉口しました。黄色は世界的にタクシーの色です。黄色く車体を塗った「イエローキャブ」も走っており、タクシーはロシアの「ニュービジネス」と言っていました。

さて、回転寿司を彼らは「すしバー」と呼びます。1階は

回転寿司、2階はテーブルと小上がりになっており、お客さんはロシア人がほとんどで人気はやはり1階の回転寿司のようでした。イクラは甘塩ではなく、塩づけのイクラで違和感を感じましたが、シャリもおいしく、ネタも揃っていました。お客さんはロシア人がほとんどで、値段はタコ、イカなどは約200円でした。サハリンの実質物価は日本の1/3ぐらいですので、やはり高級食でしょう。

それから、24時間営業のスーパーマーケットが新しくできていました。品数も多く、レジでは若い女性がバーコードでお客さんの対応をしていました。以前は、買う品物を決めてその金額を先にレジで払い、その領収書を持って品物と交換する方法でしたので、どんどん合理化が進んでいるようです。しかし、入口には必ず屈強なガードマンがチェックをしているのを見ると、やはり治安が不安定なサハリンだと感じます。

サハリンはどんどん経済が発展し、生活様式も日本に近づきつつあります。1990年代には資本主義が分からず？「合併会社」で日本の経済を利用し、さらにオイルマネーで日本に追いつこうとしているサハリン。「日本に一番近いヨーロッパ」というポスターが大きく見え始めました。（合地信生）



サハリンのすしバーの店内

発行 斜里町立知床博物館協力会 2005.9.22

099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内

TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257

<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>